



足立工業高等
学校に蒸気機
関車が寄贈され
ました。

発行日

平成28年3月30日

2016年2月17日、この日、星野栄次郎さまより足立工業高等学校へ、蒸気機関車
"C6248"の模型が寄贈され、その寄贈式が全校生徒の前にて行われました。

今回、寄贈していただいたのは、蒸気機関車や客車部分、走るための専用の線路(世
界共通の7 $\frac{1}{2}$ インチ(191mm))です。

寄贈して頂くことになりましたこの蒸気機関車模型は、実際の蒸気機関車と同様に
火室で炭や石炭を燃やして水を沸かし蒸気を発生させることで走らせることが可能です。

また、その時には実際に人が乗った客車(最大15トンの乗客)を引く出力を発揮するこ
とができる大変素晴らしい、高度な技術が詰め込まれた作品です。

・御寄贈者 星野栄次郎(ほしの えいじろう)様プロフィール

お生まれは、台東区千束で東京スカイツリーが、目前に迫った地域。

ご誕生は、昭和8年、現在83歳。

東京都立墨田川高校から明治大学工学部機械工学科を卒業されて、
日本の理化学のトップクラスの理化学研究所に勤務。

その後、星野様のお父様の家業の銅器職人として、お兄様とともに
引き継ぐことになりました。

お父様のお仕事は、明治時代から昭和の初めまでどの家庭にも火鉢が
あって、そこに小さめのやかんが据え付けられるように銅の壺と書いて
「どうこ」というつくりつけのかまどを銅で成形していた、数少ない唯一の
職人のお一人でした。

その銅壺(どうこ)をつくっていた、銀次郎というお父さんの名前を冠して、「銅壺屋の銅銀」(どうこやのどうぎん)と
称して、お父様は有名でした。

台東区の伝統工芸品として、現在は、甥にあたられる方が、唯一の後継者として、銅銀銅器店を営まれています。(詳しいこと
は、台東区のホームページをご覧ください)

銅製の加工は、溶かして型に流し込む鑄造(ちゅうぞう)法が根気よく、かなづちで叩いて成形する鍛金(たんきん)法といわれ
る2種類の方法があります。星野様は、この鍛金で成形して、緑青(ろくしょう)などで青銅色や赤さび色に染める、江戸銅器といわ
れている独特の手法によって製作されてきました。

これら技能をいかして、展示されている、蒸気機関車をすべて手作りで製作をされました。構想から完成まで40年くらい前から
貫通式直通真空ブレーキやインジェクター給水装置、全回転部(ニードルベアリング入り)、について研究、実験、改良を重ねてこら
れ、現在も第3号機を製作中です。

そして、この「大型模型蒸気機関車出張運転をします」ということで、ボランティアで各地のイベントに出向いて、小さなお子さん
を始め、多くの方を乗せ、すでに1000キロを走行しました。

